

【 まちの将来像6 】

心がけから行動へ
みんなで創る環境にやさしいまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち			
2	施策	6-1	いごちの良い生活環境をたもつ			
3	対応するSDGs					
4	施策の方向性(前期基本計画より)	大気・水環境等の環境監視による環境の把握に努めるとともに、事業者に対する指導や公共下水道・公設浄化槽の整備による環境の保全対策を進めます。また、環境美化などについての意識啓発を進め、市民一人ひとりのマナーが向上し、いごちの良い生活環境を保ちます。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	吉田 誠	
		施策主担当課	産業環境部	環境政策課	—	
		施策関係課	市民生活相談課、資源循環課、環境事業課、下水道総務課、下水道施設課			
6	施策内の取組(★:重点プラン該当取組)	6-1-1	健康に過ごすことができる生活環境の保全			
		6-1-2	新たな環境課題への対応			
		6-1-3	快適環境の保全			

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。			
2	評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R1年度末現在の施策の主な課題			
	健康に過ごすことができる生活環境の保全については、一般環境における騒音の環境基準達成率は、平成27年度が81%であったものが令和元年度は94%と改善傾向が見られます。また、公害苦情の件数は、平成30年度は地震、大雨の影響で家屋等の解体工事件数が増加したことに伴う粉じん等の苦情が急増したこともありましたが、依然、騒音関係の苦情が多く、増加傾向が続いています。 公共下水道の整備状況は、供用開始区域を拡大し、人口普及率が目標値に近づいており、生活排水処理対策が進んでいます。 新たな環境課題への対応については、事業所における化学物質の使用やライフサイエンス系施設の設置によって、周辺環境へ影響を及ぼさないようにするため、適正な管理運営に向けての事業所指導を進めています。 快適環境の保全については、環境フェアでの啓発をはじめ、環境美化活動として市民団体等と連携した清掃活動や街頭キャンペーンを実施したほか、不法投棄防止パトロールを行うなど抑止効果のある取組を実施し環境美化意識の向上を呼びかけました。指標面においては、平成27年度の路上喫煙率が0.229%であったものが令和元年度は0.201%となり、目標値を達成しました。また、所有者不明猫の避妊去勢手術件数は平成27年度39件であったものが令和元年度は156件となり、目標値95件を達成しました。しかしながら、依然、不法投棄、ペットの糞尿などへの苦情や、ごみ屋敷による近隣住民の生活環境への悪影響を及ぼす事案が発生している状況があります。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	公共下水道の供用開始率100%の達成を目指すとともに、公設浄化槽の設置を促進する必要があります。		
			課題②	ライフサイエンス系施設の設置により周辺環境に影響が及ばないように適正な管理運営と化学物質の排出量削減に向けての事業所指導を継続して行う必要があります。		
			課題③	ポイ捨て・不法投棄対策として、継続して啓発活動を実施し、一人でも多くの市民の環境美化意識を高める必要があります。		
			課題④	路上喫煙の防止に関する条例施行後、路上喫煙率は大きく減少しているものの、最近は下げ止まり傾向にあり、一層の啓発に取り組む必要があります。		
			課題⑤	ごみ屋敷について、その住民のみならず、近隣住民の生活環境に衛生上、防災上支障を生じさせていることから、解消に向け、個々のケースに応じた取組を推進する必要があります。		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち			
2	施策	6-1	いごちのよい生活環境をたもつ			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	6-1-1	健康に過ごすことができる生活環境の保全				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名	牧原 博孝
3	関係課	下水道総務課、下水道施設課					
4	目標 (前期基本計画より)	大気、水等の環境が良好な状態で維持されています。 生活排水が適正に処理されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	生活環境の状況については、概ね環境基準を達成しています。環境基準の達成のためには、事業活動に伴い発生するばい煙、汚水等の排出規制及び道路から発生する騒音の監視を継続する必要があります。 下水道等事業においては、水洗化促進のため、公共下水道区域で13件の助成金支給を、公設浄化槽区域で3件の助成金支給と1件の改造資金の貸付を行い、また、彩都東部土地区画整理事業の進捗等により、74.16haの供用開始を行い、公共下水道の人口普及率が99.41%となり、前年度から0.04ポイント上がりました。なお、公設浄化槽については4基設置するとともに1基の寄付を受けました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		一般環境における騒音の環境基準達成率	%	↗	94	94	90(R1)
公害苦情の件数	件	↘	63	59	45(R1)		
公共下水道の人口普及率	%	↗	99.37	99.41	99.5(R1)		

1	取組	6-1-2	新たな環境課題への対応				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名	牧原 博孝
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	化学物質を取り扱う事業所では使用の低減と適正管理が行われ、ライフサイエンス系施設では環境保全協定が守られ、周辺環境が良好な状態で維持されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	化学物質の排出量削減の管理目標が達成出来なかった事業所に対し立入を行い、今後の取組みについて排出量削減に向けた処理施設の導入を検討するよう指導を行いました。 また、新設のライフサイエンス系施設はありませんでしたが、既存の施設に定期的な立入を行い、施設が適正に管理されていることを確認しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		事業所における化学物質排出量(H29年度387t)	t	↘	402	—	前年度未満(各年度)
環境保全協定の締結率	%	→	100	100	100(各年度)		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-1	いごちの良い生活環境をたもつ

★:重点プラン該当取組

1	取組	6-1-3	快適環境の保全				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	市民生活相談課	課長名	多田 明世
3	関係課	環境政策課、資源循環課、環境事業課					
4	目標 (前期基本計画より)	モラル・マナーの向上で快適な生活環境が保たれています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		b	環境フェア2019において市民等を対象に環境美化意識高揚のための啓発を行ったほか、市民団体等の協力のもと市内一斉清掃及び美化活動を実施しました。また、警察と連携してパトロールを行うなど不法投棄の防止に努めた結果、快適な生活環境の保全に効果をあげています。指標面では、所有者不明猫の避妊・去勢手術件数は156件と年々増加させることができました。しかしながら、路上喫煙率は条例施行後大幅に減少しているものの、0.201%と下げ止まり傾向にあり、依然、路上喫煙やペットの糞尿に対する苦情、不法投棄が後を絶たず、また、ごみ屋敷による近隣住民の生活環境への悪影響を及ぼす事案も発生しています。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		路上喫煙率	%	→	0.196	0.201	0.2(R2)
所有者不明猫の避妊・去勢手術補助件数	匹	↗	154	156	170(R2)		


4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」について、概ね目標を達成しているか、達成へ向けて順調に取組が進んでいることから、総合評価「B」は妥当であると考え。 ・取組6-1-1の公害苦情の件数については、目標に達していないものの減傾向にあり、その他指標も順調に目標に近づいていることから、引き続きの取組に期待したい。 ・取組6-1-3について、快適な生活環境の保全に効果をあげていることが記述されているが、具体的にどのような面で効果をあげているのかについて、さらなる説明を求めたい。特に清掃活動や不法投棄についての件数・量などについてのデータがあれば参考指標として加えることが取組を評価するにあたって重要であると考え。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (前期基本計画より)	みどりを育む取組や生態系への配慮を推進するとともに、身近な「まちの緑」「農地」「里山」「水辺」を保全し、自然とふれあう機会の創出に取り組み、人の生活と自然とのバランスのとれた自然環境を創ります。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	吉田 誠
		施策主担当課	産業環境部	農とみどり推進課	—
		施策関係課	環境政策課、公園緑地課、下水道施設課		
6	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	6-2-1	都市とみどりの共存		
		6-2-2	★自然資源の利用の推進		
		6-2-3	生物多様性の保全		

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R1年度末現在の施策の主な課題			
2	<p>平成27年度に改定した緑の基本計画で定めた目標や取り組み方針、施策に従い、緑の将来像の実現に向けた取り組みを進めるにあたり、花と緑の街角づくり推進事業の充実を図るとともに、平成28年度から緑の相談を実施、平成30年度のプレ開催を経て、令和元年度より緑の勉強会を本格開催し、緑化技術や知識の普及を進めました。また、市の花バラの普及及び公園バラ花壇の市民運営に向けた人材育成に取り組むため、バラ鉢植え実技講習会を開催するとともに、バラ栽培講座開催の検討を進めました。民有地緑化助成事業の実績が低迷していることから、使いやすい制度への改善を検討しました。市内の学校等においてみどりのカーテンを設置し、市民・事業者の取組に支援を行いました。</p> <p>里山保全につきましては、森林ボランティアの育成を図るため森林サポーター養成講座を開講し5年間で75名が修了され、卒業生の多くが森林保全ボランティアとして活動されています。また、里山センターを運営し市民参加型の里山保全を推進しました。森林整備につきましては林業団体が行う森林整備に対し支援を行いました。木材利用を促進させるため、茨木市木材利用基本方針を策定し、里山センターなどで間伐材などの利用促進を図りました。</p> <p>棚田等にある遊休農地については、集落営農等への補助支援や農地中間管理機構等を通じた新たな担い手の確保に努め、解消を図りました。また、エコ農産物栽培を推進し、約10haの圃場で栽培支援を行いました。</p> <p>生物多様性の保存につきましては、市民が生物多様性に興味を持つきっかけを提供するとともに、環境資源補完調査の調査員を養成するための講座を6回開催しました。環境資源補完調査については10回行い、市内の生物多様性の現状を調べました。また、平成29年度作成の生きもの発見ガイドブックを小学校3年生に配付するほか、環境教育ボランティアによる小学校向け環境学習出前講座でも活用しました。</p>		課題①	緑のまちづくりの推進のためには、市民個々の都市緑化への意識向上と共に、緑化技術や知識の普及などの支援が必要です。	
			課題②	民有地緑化助成事業の利用者の確保及び市民ニーズの的確な把握と共に、効果的な制度改革が必要です。	
			課題③	森林保全ボランティアの高齢化や人員不足により、活動能力が低下しており、新たなボランティアの確保が必要です。	
			課題④	地産地消を通じた、安全・安心な農産物の供給を促進するため、環境に配慮した農業を推進する必要があります。	
			課題⑤	生きものや自然に関する学習会について、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた実施方法を検討する必要があります。	

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	6-2-1	都市とみどりの共存				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	農とみどり推進課	課長名	浦野 芳博
3	関係課	環境政策課、公園緑地課、下水道施設課					
4	目標 (前期基本計画より)	市民や事業者・団体が、みどりの必要性を認識し、緑化活動や水辺の保全が進んでいます。また、公園や水辺は、市民で賑わっています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	緑の基本計画で定めた目標や取り組み方針、施策に従い、緑の将来像の実現に向けた取り組みを進めるにあたり、花と緑の街角づくり推進事業の充実を図るとともに、緑の相談及び緑の勉強会を開催し、緑化技術や知識の普及を進めました。また、市の花バラの普及及び公園バラ花壇の市民運営に向けた人材育成に取り組むため、バラ鉢植え実技講習会を開催するとともに、バラ栽培講座開催の検討を進めました。民有地緑化助成事業の実績が低迷していることから、使いやすい制度への改善を検討しました。保存樹制度は関係各所と情報共有し活用を検討するとともに周知を進めました。市内の学校等においてみどりのカーテンを設置し、市民・事業者の取組に支援を行いました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		花と緑の街角づくり推進事業の参加者数	人	↗	1,759	1,786	2,050(R1)
民有地緑化助成事業の補助件数	件	↗	1	2	15(R1)		

1	取組	6-2-2	★自然資源の利用の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	農とみどり推進課	課長名	浦野 芳博
3	関係課	環境政策課					
4	目標 (前期基本計画より)	美しい里地・里山が保全され、環境に配慮した農地の活用が進んでいます。また、間伐材などの有効利用が多方面で進んでいます。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (北部地域の活性化)	内容	間伐材の活用促進			
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	里山保全につきましては、森林ボランティアの育成を図るため森林サポーター養成講座を開講し5年間で75名が修了され、卒業生の多くが森林保全ボランティアとして活動されています。また、里山センターを運営し市民参加型の里山保全を推進しました。森林整備につきましては林業団体が行う森林整備に対し支援を行いました。木材利用を促進させるため、茨木市木材利用基本方針を策定し、里山センターなどで間伐材などの利用促進を図りました。棚田等にある遊休農地については、集落営農等への補助支援や農地中間管理機構等を通じた新たな担い手の確保に努め、解消を図りました。また、エコ農産物栽培を推進し、約10haの圃場で栽培支援を行いました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		森林サポーター養成講座受講者数	人	↗	22	11	15(各年度)
エコ農産物栽培面積	ha	↗	10	10	16.6(R1)		
遊休農地面積	ha	↘	8	8	3(R1)		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる

★:重点プラン該当取組

1	取組	6-2-3	生物多様性の保全				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 牧原 博孝	
3	関係課	農とみどり推進課、(公園緑地課)					
4	目標 (前期基本計画より)	生きものや自然とふれあう機会が増えています。 多様な生きものが生息・生育できる環境が整っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	西河原公園において、天然林整備等の実施によりホタルの生息に適した環境を創造しつつ自生の検証を進め、自生を確認しました。 市民が生物多様性に興味を持つきっかけを提供するとともに、環境資源補完調査の調査員を養成するための講座を6回開催しました。環境資源補完調査については10回行い、市内の生物多様性の現状を調べました。また、平成29年度作成の生きもの発見ガイドブックを小学校3年生に配付するほか、環境教育ボランティアによる小学校向け環境学習出前講座でも活用しました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		生きものや自然に関する学習機会の提供回数	回	↗	56	43	60(R1)
生きものや自然に関する学習機会への参加者数	人	↗	2,832	2,000	2,000(R1)		


4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」について、取組により差はあるものの、目標へ向けて活動が進んでおり、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・例年実績が低迷している民有地緑化助成事業について、制度改善の検討を行っているとのことであるが、改善により市民にとって利用しやすい制度となることに期待したい。 ・それぞれの取組の参考指標に着目すると、達成できていないものも多いことがわかる。評価理由においては、どのような理由でそれぞれの評価を確定させたのかについて、今後は詳述いただきたい。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-3	ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (前期基本計画より)	市が率先して省エネルギー対策を行うとともに、市民や事業者と連携して、再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギーの推進に努めます。また、情報交換の場を通じてさまざまな主体が連携し、新たな取組の輪を広げ、ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざします。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	吉田 誠
		施策主担当課	産業環境部	環境政策課	—
		施策関係課	総務課、危機管理課、建設管理課		
6	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	6-3-1	省エネルギーの実践及び普及啓発		
		6-3-2	再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入促進		

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R1年度末現在の施策の主な課題			
2	<p>市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量は、数値の把握に数年かかり、現時点で把握可能な平成28年度までの状況は減少傾向にあります。</p> <p>環境イベントの参加者数については一定数で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえ、新しい生活様式の中での開催方法について検討する必要があります。</p> <p>4年目となったエコポイント制度は、利便性の向上を図るため、令和2年度、リニューアルする市総合アプリにおいて電子化されたエコポイントが利用できる見通しとなりました。</p> <p>市管理の街路灯のLED化を計画的に行い、LED化率が平成30年度末の83%から令和元年度末は91%と上昇し、環境負荷の低減を図りました。</p> <p>再生可能エネルギー導入の累計件数は、住宅用太陽光発電システム等の導入補助制度の実施により、緩やかに増加している状況です。令和元年度は補助件数が前年度より増加しており、補助対象として追加した住宅用蓄電システムの設置も当初の想定より多かったことから、より低炭素な暮らしに寄与していると考えられます。</p> <p>以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していますが、新たな課題もあることから、総合評価は「B」とします。</p>	課題①	エコポイント制度は、認知度を上げ、参加する市民を増やしていく必要があり、スマートフォンアプリによる電子化など、制度の利便性を向上させるよう運用していく必要があります。		
		課題②	学校現場における環境教育の現状把握を行った結果、環境教育のための授業時間の確保が難しくなっていることから、限られた授業時間の中で取り入れやすい環境教育を実施していく必要があります。		
		課題③	環境フェアについて、北グラウンドの拡張工事に伴い北グラウンドが使用できなくなるほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度の実施方法を検討する必要があります。		
		課題④	庁舎へLEDを年次的に導入し、庁舎の省エネルギー化を推進していく必要があります。		
		課題⑤	市管理街路灯の全灯LED化の目標(令和2年度完了)に向け、さらなる転換を行う必要があります。		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち			
2	施策	6-3	ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	6-3-1	省エネルギーの実践及び普及啓発				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名	牧原 博孝
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民等の環境に関する意識が高まり、省エネルギーの実践が進んでいます。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量は、数値の把握に数年かかるため現時点で評価することは困難ですが、排出量は減少傾向にあります。 環境イベントの参加者数については一定数で推移しており、今後も引き続き開催内容の充実と参加の呼びかけに努めていく必要があります。 4年目となったエコポイント制度は、利便性の向上を図るため、令和2年度以降、リニューアルする市総合アプリにおいて電子化されたエコポイントが利用できるよう実施内容を検討する必要があります。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量(把握している直近2か年の実績値を記載)	t	↘	5.86(H28)	5.28(H29)	5.24(R2)
環境イベント等各種普及啓発事業への参加者数	人	↗	7,400	7,400	6,500(R1)		
プラットフォームへの参加者数	人	↗	9	—	10(R1)		

1	取組	6-3-2	再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入促進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名	牧原 博孝
3	関係課	総務課、(危機管理課)、建設管理課					
4	目標 (前期基本計画より)	化石燃料に依存しない、再生可能エネルギーの導入により、低炭素な暮らしや事業活動の普及が進んでいます。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市管理の街路灯のLED化を計画的に行い、LED化率が平成30年度末の83%から令和元年度末は91%と上昇し、環境負荷の低減を図りました。 再生可能エネルギー導入の累計件数は、住宅用太陽光発電システム等の導入補助制度の実施により、緩やかに増加している状況です。令和元年度は補助件数が前年度より増加しており、補助対象として追加した住宅用蓄電システムとの同時設置も多いことから、より低炭素な暮らしに寄与していると考えられます。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		再生可能エネルギー導入件数(累計)	件	↗	4,989	5,300	4,730(R1)
市管理街路灯のLED化率	%	↗	83	91	100(R2)		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-3	ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす




4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」について、エコポイント制度普及へ向けた工夫や参考指標の実績から見ても、総合評価は「B」であるが、本年度の実績についてはAに近い「B」であると評価できる。 ・エコポイント制度について、スマートフォンアプリによる電子化など制度の利便性向上が課題であるが、このようなゲーム的要素をアプリに取り入れる場合は、「ゲーミフィケーション」と言われる考え方を取り入れ、景品以外のフィードバック(その行動がどのように、どの程度環境に良いのかなど)を考えるなど、幅広い年齢層への環境教育につなげることが重要である考える。 ・取組6-3-1の参考指標である「プラットホームへの参加者数」については、例年数値があったものが今年度は「-」となっているため、その理由については評価理由などで説明した方が良い。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる		
3	対応するSDGs	  			
4	施策の方向性 (前期基本計画より)	資源の循環とごみの減量化を図るため、新たな分別品目の追加検討を行うとともに、市民等への意識啓発に努めるほか、処理施設については、炉の更新に向けて計画的に取り組みます。また、市民、事業者は、ごみの発生抑制、再資源化に努め、きちんとした分別で資源の循環を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	吉田 誠
		施策主担当課	産業環境部	資源循環課	—
		施策関係課	環境政策課、環境事業課		
6	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	6-4-1	減量化の推進		
		6-4-2	再資源化の推進		
		6-4-3	適正処理の推進		

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R1年度末現在の施策の主な課題			
2	<p>減量化については、事業系ごみの年間排出量は平成27年度の48,988tから令和元年度の47,800tまで減らすことができました。また、家庭系ごみの年間排出量も平成27年度に比べて減少しています。</p> <p>再資源化については、家庭系ごみにおいて、集団回収や店頭回収を行うとともに、小型家電及び水銀使用製品の拠点回収を実施し、再資源化を推進しました。事業系ごみについては、事業所訪問や展開検査により、排出事業者に対する再資源化の指導を行いました。平成27年度の回収量13,319tから、令和元年度11,096tに減少しています。</p> <p>適正処理については、ごみ処理施設の運営において、バイオマス燃料を活用することにより、効率的かつ安定的な運営に取り組むとともに、施設の適正な維持・補修を進めました。また、ごみ・資源物等の収集については、効果的かつ円滑な収集を行い、市民1人あたりの処分経費及び収集経費は、ほぼ横這いの状態となっています。</p> <p>ごみ処理施設の整備については、平成30年度に策定した「一般廃棄物処理施設長寿命化総合計画」に基づき、令和元年度に基幹的設備改良工事に関する発注仕様書を作成しました。</p> <p>また、摂津市とのごみ処理の広域化については、令和元年度に、茨木市及び摂津市における循環型社会の形成に係る連携協約を締結し、広域連携が開始されました。</p> <p>以上から、ごみの減量化や再資源化については、一般廃棄物処理基本計画に基づき各施策を進めており、進行にやや遅れがあるものの、大規模災害の影響等突発的要因が大きかったことを考慮しても、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していることから、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	家庭系ごみ及び事業系ごみの減量化に関して、コロナ禍のなか、一般廃棄物処理基本計画の目標達成に向け、さらなる取組が必要です。	
			課題②	家庭系ごみ及び事業系ごみの再資源化に関して、コロナ禍のなか、一般廃棄物処理基本計画の目標達成に向け、さらなる取組が必要です。	
			課題③	基幹的設備改良工事発注仕様書に基づき契約事務を進め、令和2年度から3か年の予定で、改良工事を実施する必要があります。	
			課題④	発足した連携協約による広域連携の下、「事務の委託」等について、摂津市と協議・調整していく必要があります。	
			課題⑤	令和5年度から予定している摂津市との広域化により、車両搬入台数の大幅な増加、場内出入口の追加が生じるため、計量システムを含む場内設備を整備する必要があります。	

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち			
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	6-4-1	減量化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	資源循環課	課長名 神谷 邦夫	
3	関係課	環境政策課					
4	目標 (前期基本計画より)	家庭系ごみや事業系ごみが減少しています。 不適正ごみの搬入を未然に防ぎ、ごみの減量化・適正化が図られています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	平成27年度より、ごみの減量化を図るため、市民等への意識啓発や減量活動に取り組んでいるところですが、令和元年度において、家庭系については、出前講座等による市民・児童を対象として環境教育を実施したほか、広報誌・ホームページ・SNS・アプリ等による積極的な啓発に努めました。また、生ごみ処理容器等の購入助成やエコポイントの発行、フードドライブ及び不用品交換会の実施等により市民の自発的なごみの減量活動を促進しました。また、事業系については、事業所訪問を行い指導を実施したほか、事業所用啓発パンフレットの刷新等、啓発に努めました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量(資源物及び災害ごみを除く)	g/人・日	↘	432	447	392(R7)
事業系ごみ年間排出量(災害ごみを除く)	t	↘	46,005	47,800	44,266(R7)		

1	取組	6-4-2	再資源化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	資源循環課	課長名 神谷 邦夫	
3	関係課	環境政策課					
4	目標 (前期基本計画より)	家庭や事業所のごみが、きちんと分別されています。 ごみの資源化率が上昇しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	平成27年度より、資源の循環を進めるため、市民等へのごみの発生抑制や再資源化の啓発に取り組んでいるところですが、令和元年度において、家庭系については、既存の分別収集のほか、小型家電及び水銀使用製品とあわせての拠点回収を拡充するなど、再資源化を推進しました。また、見直しを行った再生資源集団回収報奨金事業の周知やごみの分別・再資源化に繋がる行動にエコポイントを発行し、市民の自発的な行動を促進しました。また、事業系については、事業所訪問により排出事業者に対する再資源化の指導を行ったほか、事業所における廃棄物責任者への研修会を開催し、事業者の積極的な行動を促進しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		資源物回収量	t	↗	11,978	11,096	15,171(R7)

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる

★:重点プラン該当取組

1	取組	6-4-3	適正処理の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境事業課	課長名 中村 誠二	
3	関係課	環境政策課、資源循環課					
4	目標 (前期基本計画より)	ごみが適正に分別収集され、資源の循環が進んでいます。 ごみの効率的な処理に努め、ランニングコストの抑制が図れています。 新たな炉の建設が進んでいます。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		b	小学生のほか、市民を対象にごみ処理の適正化について環境教育・啓発を実施しました。 ごみ処理施設の運営については、バイオマス燃料を活用し、効率的かつ安定的な運営に取り組むとともに、施設の適正な維持・補修を進めました。 長寿命化総合計画に基づき、基幹的設備改良工事に関する発注仕様書を作成しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ 摂津市のごみ処理の広域化については、令和元年12月に「茨木市及び摂津市における循環型社会の形成に係る連携協約」を締結し、広域連携を開始しました。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		市民1人あたりの収集経費	円	→	5,525	5,588	5,600(R2)
市民1人あたりの処分経費	円	→	7,240	7,478	6,500(R2)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<p>・「施策の現状と課題」について、平成27年度からの中期的視点からはゴミ排出量の減少などの結果が出ており、総合評価は「B」で妥当であると考えます。しかしながら、大阪北部地震の影響もあるものと思われるが、ここ数年と比較して数値が悪化傾向にある参考指標もあり、目標値達成にはさらなる活動の促進が必要になる。</p> <p>・内閣府実施の令和元年度「環境問題に関する世論調査」では、プラスチックゴミ問題への関心度であるが、若年層の関心が低い傾向にあり、これまでの関連調査においてもゴミ問題への関心は若年層が低い傾向となっている。そのため、現在実施しているSNSやアプリなど若年層へアプローチできる手法の活用については、継続して取り組むとともに、利便性などの工夫していく必要がある。</p>